



2年ぶりのふるさと県ふれあい広場文化祭を開催しました。

コラムかなえ

11月6日・7日に、2年ぶりとなる「ふるさと県ふれあい広場文化祭」を開催いたしました。昨年は、コロナウィルスの影響を考慮して、残念ながら中止とせざるを得ませんでした。

今年度に入り、一時的に感染度合いが落ち着きを見せってきたことから、感染対策を十分に検討した結果、今年度は時間を短縮し、来場者を把握する形で行うこととし、文化祭の開催に向けた準備を続けてきました。当初は、それ程人が来ないのではないかと思っておりましたが、来場された方は1500人にものほり、時間あたりでは例年と同様の水準で来場があったことが後にわかりました。改めて、県の皆さまの元氣と意欲を十分に感じさせていただきました。この場をお借りして、ご来場いただいた皆さまに心より御礼申し上げます。

CONTENTS

- 地域振興
市長とのまちづくり懇談会開催
- 環境衛生
アルミ缶回収方法の見直し
- 消防団
秋季非常招集訓練実施
- 生活安全
特殊詐欺被害の防止について
- 健康福祉
文化祭とフードドライブ
- 子どもを育む
コミュニティスクールについて

地域振興

10月29日市長と語るまちづくり懇談会開催される
総務文教部長 宮澤 隆光



鼎地区市長と語るまちづくり懇談会は10月29日、鼎公民館において49名の参加者により開催されました。
最初に佐藤市長から「日本一住みたいまち」実現に向けて、また、鼎地区の現状や今後必要と感じていること等を



お話しいただき、市長からは四季がはっきりしており、快適な生活ができる水準の高い地域であること、また、将来の農商工のバランスや小中学生が他地区と交流する機会の必要性等を話されました。

地域課題では、二つのテーマが課題提起され、第一の「鼎地区複合施設建設の早期決定について」は、財政計画への組み入れ、建設時期の明確化、八十二銀行の土地の取得等の要望に対し、市からは長期的財政見直しへの組み入れへの検討、八十二銀行へは用地取得の要望を伝え、理解を示してくれている。現時点で建設時期は示せないが、今後具体的な議論を進めていくとの話がありました。

第二の「市道妙琴原線拡張

工事実施とリニア工事後の妙琴公園将来構想について」では、拡張工事の早期の実施、公園管理の検討要望に対し、市からは住民の早期実施の要望は受け止めるとし、リニア工事との関連から今後検討したいとの話があり、公園管理については、風致公園であり自然に近い形で公園としたい、指定管理を含めた管理の仕組みづくりを検討する旨の話がありました。

その他、旧鼎図書館の跡地の取得要望に対し、市からは市が購入することは難しいが、旧あかり保育園跡地をまちづくり委員会へ貸与することも良いのではないかと、この提案がありました。その他、ウィークライフバランスの推進、クオータ制の必要性、SDGsの普及、屋台籠子を地域の宝としてネーミング要望等の発言があり、有意義な懇談会となりました。

財産区山作業実施

産業経済部長 本島 文男

好天に恵まれ10月24日に、松川入り財産区の山作業を無事に終えることができました。ご協力いただきました各種団



体の皆さまに心より感謝申し上げます。
いつの間にか、少しの急斜面を上るだけでも息が切れるような年齢・体型になってしまいました。大きく育った木を見上げるたびに植林から始まり下草刈りや枝打ちなどにご苦労いただいた多くの先輩諸兄に敬意と感謝の思いを巡らさざるを得ません。何十年あるいは百年単位のサイクルの中の一つ2年間だけを担当させていただきましたが、孫子の代への橋渡しの手伝いできていれば幸いに思っています。
しかし、残念なことはコロナウィルスのまん延により、山作業に参加していただいた皆さん全員での反省会が開催



鼎自治振興センター 10月1日付職員の変動

【転出】

加藤 里子（環境課）

【転入】

原 涼歌

（学校教育課）



県地区ホームページを開設しました

県地区HP作成委員会

昨年10月から、県地区にホームページを作ろう！と始まりましたこの活動もホームページ公開に向けた最終調整を経て、12月1日から一般公開を行うことができました。

鼎に住んでいる人も、これから住んでみたい人も、誰もが「素敵な地域だな」と感じてもらえるようなサイトを目指し、取組みを進めてまいりました。

また、このホームページは、長く使っているよう、地区の情報や緊急時の情報を集約して、お届けすることも目指し、各地区で更新担当の方を決め、緊急情報が自動発信されるようにしました。

このホームページで、鼎に



地区それぞれの取組みも発信していきます

OPEN!
鼎ホームページ開設
https://hitokana.com

人は出る、入る出る。

人と人との繋がり、温もりを感じられるまち「鼎」そんなまちの魅力を発信するホームページを開設しました。

県地区の最新情報や生活の困りごとを相談できる窓口、鼎の魅力を伝える「人」のストーリーを掲載。鼎の心、温もりを感じてもらいます。ホームページを通じて学びあえる仲間を、募集!

住む人、10地区の魅力、地区の各種情報を発信し、徐々に様々な情報が充実したホームページを目指していきますので、ぜひ一度 <https://hitokana.com> からご覧ください。

今後、末永く見ていただけると幸いです。

今後は、皆さまにご活用いただけるようにホームページを整えていきます。
※ホームページには、上記QRコードからも簡単にアクセスできます。

鼎地域協議会の活動について

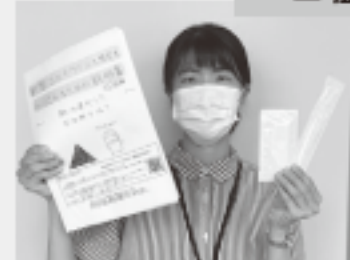
会長 澤柳忠夫

鼎地域協議会は、まちづくり委員会、各区自治会、各種団体、公募推薦などにより、今年4月より21名の委員が選任され、2年間の任期で、公共施設など鼎地区の課題や市からの諸問事項について協議を行っています。また、まちづくり委員会と連携し、住み良い地域づくりに取り組んでいます。今年度現在まで3回の会議が行われました。

- 第1回（5月7日）
・飯田都市計画道路の変更について
・飯田市パワーアップ地域交付金実績報告及び新年度交付申請について
- 第2回（9月9日）
・一色ハチンコ町屋跡地における自動車販売修理業の出店について
- ・旧鼎図書館建物及び敷地について
- 第3回（11月11日）
・公立保育園のこども園化について
- ・矢高テニスコートの休場日の短縮について
- ・旧鼎図書館敷地及び旧鼎幼稚園の敷地への対応について

「新型コロナウイルス感染症をのりこえるための説明書」お読みいただきましたか？

日本国内で初めて新型コロナウイルス感染症が確認されたのは、2020年1月でした。「敵は進化しました。では我々は何？」と著者の諏訪中央病院の玉井道裕医師が書かれています。病気を理解し我々は何をするべきか。これまでの感染予防策を取りながら、決してこの状況に慣れず、感染しない・させない心構えが大切です。家族や友人などと共有していただき、コロナ禍での生活の参考にしてください。



また、飯田市では新型コロナウイルス感染症水際対策として抗原定性検査キットを活用した社会実験も行っています。地域外との往来がある場合に積極的な検査を行い、感染を防ぐことが目的です。これから年末を迎え、人流が増えますので是非ご活用ください。

申し込みサイト →

赤い羽根共同募金で無線機4台購入

鼎地区自主防災会では、本年度「赤い羽根共同募金配分事業」を活用して、本部に無線機4台を新たに整備しました。これにより、本部の無線機は合計8台となり、本部と離れた場所との情報伝達をより迅速に行えるようになりました。

私たちひとり一人が「自分たちの地域は、自分たちで守る」という意識を強く持ち、安全で安心して暮らせる地域環境づくりを目指してまいります。





非常招集訓練

9月17日(金)午後7時30分からみつば保育園発災の想定で秋季非常招集訓練を行いました。非常招集訓練は、実際の火災を想定し、各班のチームワークや消火活動に必要な水源の確保が的確かつスムーズに実際の火災現場でも行えるようにするための訓練になります。

秋の非常招集訓練は夜間に行うということで、明かりをどのようにして確保するかが訓練の重要なポイントの一つになります。また、今回の訓練では水源の確保が難しい立地であったため、どのように水源の確保をするのか?という問題が起きました。しかしそのような状況でも班員で知恵を出し合い水源の確保や各班で連携して放水をすること



ができ、良い訓練になったのではないかと思われれます。夜間の火災は、昼間の火災に比べて危険ですので、このような訓練を通じて安全かつ迅速な消火活動ができるようにしていきたいと思っています。今回の訓練に際しまして、多大なご理解とご協力をいただきました名古屋区長様・鼎まちづくり委員会様・地元名古屋地区の皆様・生活安全委員会様・日赤奉仕団様・伊賀良消防署様に対しまして、改めてお礼申し上げます。

分団監査

11月14日(日)午後1時から配備品などの監査を行いました。実際に火災が発生した際に配備品が使えない・配備品が見つからないということを防ぐために、配備品の数が揃っているか、壊れていないかという確認や、会計簿や機関日誌などが適切に記載されているかについて監査を行います。作年度は密集・密接を避けるため、分団の本部員のみでの見回りでしたが、今年度の監査はコロナが落ち着いてきたため、飯田市の危機管理室・飯田市消防団本部と各班の詰所を見回る形式となりました。



各班見回りましたが、詰所は整理整頓されており、配備品の数量と状態の確認ができしており、火災が発生してもすぐに出動できる状態になっていることを確認することができました。



かなえふれあい文化祭

11月6日(土)に鼎ふれあい文化祭で飯田市消防団第15分団自動車班の積載車の展示を行いました。

小さな子どもたちが普段乗ることのできない積載車に興味津々といった様子で関車に乗り込み運転する素振りをしたりして楽しんでいました。コロナ禍ということもあり、訓練の縮小や中止が相次ぎましたが小さな子ども達の安全と笑顔を守るように、火災が発生しても迅速な対応がで

消防団員募集

有事の際に活躍できる団員を募集しております。資格をとることもできます。(小型車両系建設機械など) 気になる方はお近くの消防団員、またはお近くの消防詰所までお気軽に声をかけてください。

電話 090-9667-6397
メール otokam-otomako7891@yahoo.co.jp



きるよう、訓練などに励んでいきます。



生活安全

特殊詐欺被害の

防止について

名古屋交番から

小池 章吾

名古屋交番から「特殊詐欺被害防止」についてのお願いです。

長野県内では、キャッシュカードを狙った特殊詐欺や、オレオレ詐欺、還付金詐欺の増加に加え、架空請求詐欺の被害が依然として発生しています。

飯田市内でも最近、キャッシュカードと暗証番号をだまし取られて、現金が引き下ろされる詐欺被害が連続して発生しました。

手口として、まず電話で金融機関の職員や警察官を装って「カードが不正に利用されている」などと嘘を言い、自宅を訪問。キャッシュカードと暗証番号を書いたメモを用

意させ「証拠品なので厳重に保管して」などと言ひ、持参した封筒に入れて封をして、「封印するために印鑑が必要」と言つて印鑑を取りに行かせ、そのスキに偽物のカードが入った封筒とすり替えて、目の前で偽のカードが入った封筒に印を押して返すというものでした。

警察官や金融機関の職員が、キャッシュカードの保護や保管を依頼しに行くことはありません。

また、電話に出ると犯人の話術にだまされてしまうので、在宅中も留守番電話に設定する、迷惑電話防止機能、非通知着信拒否設定の活用をして犯人の電話をブロックしてください。

交番では住民の皆様方が被害者にならないために、巡回連絡による防犯指導や啓発活動等に取り組んでいますので、ご理解とご協力をお願いいたします。



9月21日から30日
秋の全国交通安全運動
が実施されました



人波ルート作戦

秋の全国交通安全運動初日の9月21日午前7時から、東郷交差点で下山、東郷、西郷、下茶屋、中平の交通指導員、女性部員40名が「交通安全」のぼり旗や黄色の手旗を持ち、通行中のドライバーに安全運転を呼びかけました。

第2ブロック合同 人波ルート作戦

9月21日午後4時から第2ブロック（上郷・松尾・座光寺・鼎）合同で人波ルート作戦を行いました。交通量の多い上郷別府交差点に立ち活動を行いました。



交通事故に伴う 臨時人波ルート作戦

交通安全運動期間中の28日に、上郷別府交差点で車同士が衝突する死亡事故が発生しました。それを受け、10月12日午後4時より、鼎・上郷の交通指導員と飯田市交通指導員など各関係団体のおよそ40名で臨時の人波ルート作戦を実施しました。

交通安全教室

明星保育園・鼎みつば保育園・鼎あかり保育園にて交通安全教室が行われました。正しい歩道の歩き方や横断歩道の渡り方等、しっかり身に付けてもらえるよう、歩行訓練を指導しました。

鼎あかり保育園



明星保育園



鼎みつば保育園

環境衛生

切石地区におけるアルミ缶回収方法の見直し

切石支部長 遠山 広基

飯田市におけるアルミ缶回収は、鉄と同様に金属資源として取り扱っていましたが、鼎地区では独自の取り組みとして、アルミ缶のみを別途回収してお金に換え、地区の環境衛生活動等に活用しています。切石地区においては、3か所に集積所を設けて対応してきましたが、近年回収のルールを知らない、守らない方が多々見受けられるようになりました。

これらの集積所は常時無人のため、洗っていない缶や缶詰のスティール缶、油のびんなどが混入する等により、頻繁に害虫が発生します。快適な環境を維持することが困難

です。

そこで、今一度原点に立ち返り、正しいリサイクルのあり方について区民の皆さんと共に考え取り組んでいくために、アルミ缶の無人集積所を廃止し、「リサイクルステーション」においてのみ対面型で回収する方法に切り替えました。

環境衛生部員が回収作業をお手伝いする中で、適切な出し方について区民の皆さんと共有して参ります。



切石体育館無人集積所

アルミ缶集積所に混入した異物の一例



支部長を経験して 知ったこと

上巻支部長 本田 智

今までは、ごみゼロ運動に参加する程度で、あまり環境衛生の活動に関心がありませんでした。しかし、支部長という立場で活動を行うことで、普段使用しているごみの集積所の管理や、リサイクルステーションなど、見えない所で環境衛生委員の活動を知ることができました。

ごみの集積所には、分別がきちんとされていない物や、ごみ捨て場と勘違いされて、そのままの状態で見捨てられている物がありました。対策としてごみ・リサイクルカレンダーや、集積所使用のルールなどを掲示して、収集されな

ったごみには警告シールを貼り、周知しました。最近では、収集されずに残っているごみもだいぶ少なくなったと思います。

リサイクルステーションには、毎回たくさんのビンやペットボトルが集まります。埋立ごみで出してしまうは薬な物でも、ちょっとした事で再生資源にすることができ、無駄なごみを減らせるということを実感できました。

他にも、アルミ缶回収事業では、収益の一部を鼎の小中学校に寄付したり、各支部の配当金は集積所の維持管理などに使用したりするなど、実際に携わることによって、実際に携わることによって、残りの期間も支部長としてしっかり活動し、次に繋げていきたいと思っています。

アルミ缶回収のお願い

鼎地区ではリサイクルステーションで収集したアルミ缶の収益金の一部を鼎小・中学校へ寄付をし、残りの金額を各地区収集量に応じて分配し活動に役立てております。

ぜひご協力をよろしくお願い致します。



各地区から集まるアルミ缶

鼎地区 飯田市合併30周年 記念事業

① サイクルバック

販売しております!! 1枚600円



※販売場所：総合協賛センター（ℓ22-7100）どうぞお気軽にお立ち寄りください。

健康福祉

文化祭を終えて

総務運営部会長
(吉岡忠) 林 保紀

新型コロナウイルス感染症拡大が懸念される中、昨年中止された「ふるさと鼎ふれあい広場・文化祭」が今年は好天にも恵まれ、2年ぶりに無事に開催することができました。開催にあたり、鼎地区内の多くの事業所の皆様に、本



今年は感染症対策を講じながら実施しました



コロナを吹き飛ばす元気な太鼓でした



今年の字は「感謝」



いつもと違う文化祭でしたが、大勢の方々に変わりなくおいていただきました。ありがとうございます。
(左:ストラックアウト、真ん中:絵手紙作成、右:プロジェクションマッピング)



多くの方から志をお預かりしました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

お預かりした食糧は、米が105kg、乾麺類が16kg、レトルト・缶詰などが7kgとその他併せて合計130kgの食糧をお預かりいたしました。お預かりした食糧は、翌月曜日に飯田ボランティアセンターにお預けし、その後は困窮されている方に配分される予定です。

この度、ふるさと鼎ふれあい広場文化祭で、フードドライブのお声がけをさせていただきました。文化祭においては初めての試みであるとともに、事前の周知が難しい状況であったにも関わらず、大勢の方から食糧をお預かりいたしました。この場をお借りして、改めてお礼申し上げます。今後ともご理解をいただけると幸いです。

健康福祉委員会

フードドライブのレポート

事業の趣旨をご理解・ご協力をいただきましたこと、厚くお礼申し上げます。
健康福祉委員会は、本事業の主旨のひとつ、「ともに助け合い協力し合い見守り合っていく福祉のまちづくり」をふまえ、「手をつなぎ語りあつてふれあいの輪を広げよう」のキャッチフレーズのもと、模擬店部会・フードドライブ部会を担当させていただきました。
模擬店出店については、感染症対策の為、飯田保健所からの助言も考慮し、飲食を伴う模擬店は残念ですが、禁止とさせていただきます。
その上で参加いただきました団体は、鼎壮年団・鼎消防団・民生児童委員協議会・夢かなえ隊・健康福祉委員会の5団体でした。
健康福祉委員会が例年実施してきた「愛のバザー」活動は取りやめ、今年度は余っている食糧をお預かりし、生活が困窮されている方を支援すべく「フードドライブ」を実施しました。
多くの皆様からのご賛同・ご協力をいただき、ありがとうございます。
来年は新型コロナウイルスも収まり、制約のない文化祭が行われることをお祈りいたします。
今年度は皆さまご協力ご参加ありがとうございました。

子どもを育む

「コミュニティスクール」について

委員長 林 専市

「コミュニティスクール」は、学校・地域・保護者が共通の目標をもち一体となって地域の子どもたちを育てていくための仕組みです。鼎小学校は「郷土に愛着と誇りを持ち、自己実現を図る鼎の子」、鼎中学校は「気づき考え実行する生徒」を「目指す子ども像」

(目標)に定め、「学校運営協議会」で取り組みを協議し活動に反映させていきま



学校運営協議会の様子

す。今年度から鼎小学校・中学校に設置された太陽光パネルの売電収益による寄付金22万円の一部を、

活動の推進に活用させて頂くことに決定しました。既に地域の方からは安全見守り、クラブ活動、部活動、地域学習(米作り「夢かなえ隊」、獅子舞)、学習支援、読み聞かせ、学校環境整備、授業支援など様々な支援を頂いており、大変ありがたく感謝申し上げます。一方、子ども達も地域に出て、小中合同あいさつ運動

各支部公民館清掃を行っていただきます。さらに鼎中学では、地域行事などの運営活動のうち中学生が希望するものにボランティア参加できるように仕組みを、来年4月から実施できるとの計画です。

今後家庭、地域で、子どもに話を傾け共感し、共に学び、共に支え合う気持ちを育てていきます。一層のご理解ご協力をお願い致します。なお、子どもを育む委員会では安心の家の地図を地区ごとに作成し9月末から各公民館に掲示しましたので、区民の皆様にもご覧いただけますようお願いいたします。

平 獅子フェスに 中 参加して

10月17日、2年ぶりに開催



された獅子舞フェスティバルに中半も参加しました。

今回は子供獅子の参加は見送られましたが、中半獅子舞の一部を担う「おかも踊り」

には急な開催にもかかわらず9名の女の子達が参加してくれ、一週間という短い練習期間ではありましたが一生懸命に練習していた姿は印象に残りました。当日は久しぶりの大きな場所での演舞で少し緊張気味ではあったものの、堂々とかわいらしく、また華やかに演舞を披露することができました。

子ども達の感想として、久しぶりの披露で緊張はあったけど大きな失敗もなく無事踊れたこと、楽しくできた等の感想がありました。また、練習時より当日にかけテレビ局

の取材を受けテレビ放映されたことも特別な思い出になったようでした。コロナ禍の影響により獅子舞等の伝統文化の継承が難しい中、今回のフェスティバルができたことは大変良かったと思います。

す。獅子を通じて子ども達と一緒に楽しく過ごすことができた一日でした。

東 子どもの居場所

役員2年目でやっと少し流れが分かってきました。しかし普段通りの活動は昨年同様に行っていないのが現状です。育む委員会として地元の子ども達に何ができるかを考えています。登校の見守りくらいで他の前向きな取組みはほとんどできていません。コロナがなければ……もっと色んなことをして皆で楽しく過ごせたのに残念でなりません。

今でこそ多くの年代でワクチン接種が進んでいます。子ども達はコロナの為にあれ

もダメ・これもダメと我々大人とは違った対応を余儀なくされています。行事への子ども達の参加についても難しい選択を迫られました。接種を2回した大人達は安心して開催へ舵をきる、でも子ども達はどうでしょう。保護者の皆さんも今年子ども達の居場所作りについて考えたことはないのでないでしょうか。

高齢者の感染が少なくなりましたが今度は若者や子どもへの広がりが増えました。これから寒い季節を控えコロナに加えてインフルエンザの対策も必要となります。これからは子ども達主体の独自の行事について保護者の皆さんと検討をして、冬休みに何か新しい居場所作りの取組みができればいいかなあと考えています。少しでも子ども達の力になればと思っています。



初のお父さん学級開催

乳幼児と遊び 横の交流も



「お父さんと遊ぼう！」
乳幼児学級

公民館長 小西 盛登

公民館では、0歳から3歳までの就園前の子どもの親を対象にした、乳幼児学級を子どもの年齢ごとに開催し、子育て知識を高め、同年齢の子

を持つ親のつながりを深める機会としています。学級にはお母さんが参加することが多いことから、2歳児と3歳児の学級に参加している家庭のお父さん向け講座を、10月31日の日曜日に開催しました。当日は4人のお父さんが子どもと一緒に参加し、自己紹介ゲームやボールなどを使った親子体操を行い、親子仲良くひと時を過ごしました。お父さんからは「とても楽しかった。運動で汗をかけた」「お友達と集まり遊ぶのが、親子で刺激になった」「また来た」と好評でした。

えんじくどい

公民館活動を進めるため感染防止対策を考えてやれることをやろうと進めましたが、感染増加で活動を中止する判断をせざるを得ませんでした。

それでも県文化祭がおこなわれ公民館の活動や地域の活動発表の場が設けられたことは良かったと思います。

開地区公民館活動は地域の活動とともに思いやりや温かい人々のつながりを作る活動であり続けていなくてはならないと思います。

これからの未来のため明るく前向きにみんなで知恵や意見を出し合いよりよい開地区になるようにしていきたいものです。発展する開地区も交通量が増えています。道路幅が狭い所が多いため事故発生が心配されます。夕暮れ時間が早くなり暗くなるのも早くなり危険になります。車も歩行者も安全のために車は早めのライト点灯を、歩行者は反射材着用等で安全確保してお互いに交通ルールを守り事故を防止していきたいものです。一人ひとりの心掛けや思いやりで交通事故防止につなげていきましょう。

名古屋 (E・S)

2年ぶりのふれあい文化祭

文化委員 佐々木 茂昭

県地区の皆さんが集えるふるさと県ふれあい広場・文化祭が2年ぶりに11月6日、7日の二日間開催できました。今まではコロナのため色々な行事が延期、中止となりおりましたが、警戒レベルが下がりが開催の運びとなりました。開催目的と

濃い催しができるよう、密にならないよう考えました。学生たちによるパフォーマンス、各種団体による発表、会場を盛り上げて頂きました。発表の場が持てて良かったとの感想を頂きました。今回開催でき住民の皆さんとのふれあい、ましまりが深まったのではないかと思います。

今後各事業のあり方を見直しながらも県地区の交流の場がもっと増えるようなことを考えていければと思っています。

各実行委員の皆さまには初めてのところもあり大変ご苦勞様でした。



県地区高等学校連合部作中甲子園大会会場



★明星なかよし太鼓

全国大会に出場して

県中学校野球部
部長 佐藤 遼

県中野球部は9月18日から21日に全国大会に行ってきました。もともとは3月に予定されていた全国大会もコロナウイルスが流行し延期になってしまし、自分達のモチベーションを維持するのはとても大変でした。しかしそんな中でも最後の大会であった3年生は、後悔することなく全員が楽しかったと思えるような

試合をしようと思って臨みました。

その結果、試合当日は部員一人ひとりが声を出し、チーム一丸となって戦うことができました。試合結果は8-0で負けましたが、この試合は自分達にとって最高の試合だと考えます。なぜならこの試合で負けたことは僕たちにとって今後に繋がる第一歩と考えるからです。

全国大会を経験できる人は限られています。そんな貴重な経験ができ、



とても幸せです。今回の全国大会出場にあたって多くの方に応援していただきました。改めて感謝の気持ちを伝えたいです。ありがとうございました。



らは「いつもお世話になっている地域の方々のためにできたので良かった」「自分の担当場所を責任をもって取り組めた」「普段言えない感謝の言葉の代わりに一生懸命取り組めた」などの声が上がっています。

県中で行っている校外ボランティアは、普段、地域の方に伝えられない感謝の気持ちを表す活動だと思っています。呼びかけに対して、多くの生徒が自主的に参加してくれる

分館

秋の行事より

キャラクター誕生

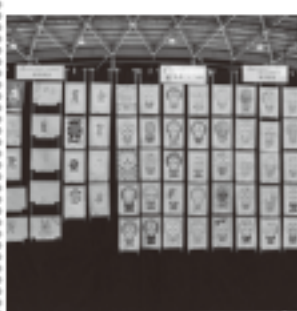
中平 加藤善子

昨年よりコロナ禍で公民館活動も思うようにできませんでした。

そんななか中平ではキャラクターを作ろうと、昨年度募集をし、22点の中より今年3月に原案が決定致しました。今年度は、そのキャラクターのぬり絵コンテストを開催致しました。同時にキャラクター1名も募集し、60点近くの応募があり、公

民館委員の審査のもと8月に決定致しました。

塗り絵によってキャラクターが完成致しました。名前は「ちゅうべい」、文化祭の展示で皆様に見て頂きました。この先「ちゅうべい」の使用を考えたいです。



三六災害60年式典

西盟区長

加藤康治

あれから60年、当時を知る人も限られてきました。「災害は同じ所で繰り返す」この教訓を忘れないために、式典では体験談、その後の復興過程の苦労話を聞きました。また、帯地区で唯一人の犠牲者福沢利男氏の冥福をお祈りいたしました。

当地は30年前、羊満水で野底川が氾濫し以後も度々洪水に見舞われている場所です。堤防も改良



されてはいますが近年のゲリラ豪雨は人知に勝ることは千曲川の氾濫を見れば明らかです。災害から命を守る行動の一助となる体験談はビデオに保存され、いつでも閲覧可能です。

2年ぶりの

「いんさと探訪」

下山 佐々木祐治

私達下山分館には、飯田下伊那地域の見学・体験を行う「いんさと探訪」という行事があります。

2年ぶりの開催でしたが、飯田線を利用し電車にて天竜峡へ向かい「天竜ライン下り」を体験し、その後「天竜峡大橋・そらさんぼ」を見学、そのまま遊歩道にて天竜峡を満喫し、再び電車にて帰宅する行程でした。



あいにくの小雨交じりとなりましたが、私を含め「天竜ライン下り」を体験したことがない方も多く、大変喜んで頂くことができました。来年度は例年並みの開催が行えることを期待したいです。

収穫祭を中心として

一色分館長

林 宗夫

令和3年度公民館事業も残り半分となりコロナ感染状況は少し落ち着いてきたかと思われま

す。本年度の公民館活動も前半は中止または延期となり何もできない状況でしたが、10月にベタンク大会を実施、少しずつ交流・親睦を深めることができるようになり「井水の恵み農業塾」活動では各種野菜を栽培、施設への寄贈及び区民への販売



を行い、サツマイモの収穫では小学校PTA協賛で芋掘り体験を実施、子ども達の笑顔と収穫の喜びを共に感じることができました。11月には収穫祭と春に延期したワンデーマーチを実施する予定です。

「SDGs」勉強会を開催

9月22日、公民館役員



の中間反省会を開催し、同時に最近話題の「SDGs」についての勉強会を開催しました。

ずんずんずん隊活動中！



ずんずんずん隊では小学生親子を対象とした農業体験活動を行っています。今年は稲作や大豆栽培に取り組んでいます。

晴耕雨整理、手品

中島 康太郎(87歳) 市



飯田市街地に住んでいた中学生の時、大火にあって焼け出されてしまい、父親が鼎の学校に勤めていた縁があって鼎に移り住みました。

信州大学教育学部で学んで教員になりました。初任校は屋代町の小学校で、その後は飯伊の小中学校11校に赴任し10クラス約400人の卒業に担任として立ち合いました。今でも、同窓会などに呼ばれて参加しています。教員時代は子供や風景の写真撮影と風景の油絵が趣味で、写真はコンテストで表彰もされました。

定年退職した後、自治会の役員の他に飯田市の福祉事業の結婚相談員もされましたが女性の応募者が少な

く苦勞されたそうです。カラオケクラブに所属するほど歌が好きで禁煙友愛会のカラオケ会に顔を出したところ、誘われて禁煙友愛会入ることになり最後は鼎の支部長まで努められました。自治会役員、結婚相談員、禁煙友愛会いずれも交流の範囲が広まりよい経験になったそうです。

現在は「晴耕雨整理」の生活を送られています。晴れの日には家の前にある畑で年間に20種類以上の野菜や花を育て、雨の日には教員時代の写真や油絵や本などの整理を行っています。2年前からは飯田マジッククラブで手品を習い、おしゃべり会で披露するなど、新しいことにも取り組まれています。

(取材 川手 浩)

かなえびと

No.45

毎日、国民がおにぎり2個を捨てている換算になる、というのが日本の食品ロスの現状だという。その年間総量612万トンは、国連の食料援助の15倍近くになる。

過日、鼎公民館役員研究会に合わせて開いたSDGs研修では、貧困やジェンダー、気候、技術革新など17の目標につい

は、全国大会出場でしたが、コロナの影響で県大会までになったので、県大会で優勝して有終の美を飾りたいです。県大会は、12月なので残された期間の練習を集中してやりたいと思います。

そして、多くの目標は、日々の練習をもっともっと頑張って、プロバレーボール選手になって、いい成績を取りたいです。頑張ります!!

編集後記

毎日、国民がおにぎり2個を捨てている換算になる、というのが日本の食品ロスの現状だという。その年間総量612万トンは、国連の食料援助の15倍近くになる。

すでにフードドライブなどの取組みが行われているのは素晴らしいが、問題は日常における個々の意識の高まりではないだろうか。旗振り役の姿勢も肝腎ではあるが...



つかめナンパーワン

中平 谷口 陽向(5年生)



No.119